

防災は 日ごろの備えから

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、死者・行方不明者約2万人、住宅被害約89万戸（全壊、半壊、一部破損）という甚大な被害をもたらしました。「戦後最大の災害」と言われるこの大震災は、阪神・淡路大震災から16年、新潟県中越地震からわずか7年半しか経っていません。

地震ばかりでなく、台風、集中豪雨、土砂災害、火災など、私たちは常に災害の危険と隣り合わせで生活をしています。「自分の住んでいる地域では地震はないだろう」「台風が近づいてから考えればなんとかなる」などの油断をしていると、ときとして大切な命を奪われることにつながります。

災害の発生を止めることはできませんが、事前に防災対策をしておくことで、被害を軽減させることはできます。いざというときにあなたとあなたの家族を守るため、日ごろから防災対策を行っておきましょう。



地震と津波によってがれきと化した集落（東日本大震災／気仙沼市）



ボランティアの炊き出しに集まった人々（東日本大震災／石巻市）

定期的に家庭で 防災について 話し合おう

災害時には、家族全員が協力し合うことが求められます。そのために、日ごろから家族で防災について話し合う機会をもちましょう。防災会議は一度で終わりにするのではなく、月に一回程度、定期的に行うことが大切です。



防災会議のテーマ

一人ひとりの役割分担を決める

いざというとき誰が何をするのかを決めておく。高齢者や乳幼児などがある場合は、誰が支援の中心となるかも話し合う。

家の外の危険個所を

チェックする
→「地震対策①」へ

家の中の危険個所を

チェックする
→「地震対策①」へ

非常持出品の

チェックと入れ替え
→「非常持出品・備蓄品を準備しよう」へ

災害時の連絡方法や 避難所を確認

いざというとき、どこに避難すべきかを確認。また家族が離ればなれになったときの連絡方法も決めておく。



避難ルートを歩いてみよう

休日などを利用して、自宅から避難所まで実際に歩いてみましょう。川のそばやがけに近い道、橋などはできるだけ避け、安全なルートを探してください。災害時の状況によっては、道路が通行止めになる可能性もあるので、複数のルートを見つけておくと安心です。

